

専攻科だより

— 海上輸送システム工学専攻第2期生修了、第3期生入学 —

専攻科長

葛目幸一

海上輸送システム工学専攻主任

多田光男

生産システム工学専攻主任

藤本隆士

平成20年9月17日海上輸送システム工学専攻・第2期生の修了式が挙行されました。2期生5名全員が、学位授与機構の審査に見事合格し「学士」の資格を取得できたことは、1期生に引き続き、すばらしい成果であると思います。海上輸送システム工学専攻第2期修了生からいただいた一言メッセージを以下に紹介します。

赤瀬：専攻科での2年間、教官方には大変お世話になりました。これから専攻科に入学する皆さんも学位の取得や就職活動、学会発表など大変なこともあります頑張ってください。

杉本：私はこの専攻科での2年間をとて有意義に過ごしたと思います。専攻科に進む皆さん、自分のやりたい事をやりたい様にやりましょう。それが何であっても、アツイ気持ちでやれば自分も周りも変わります。

平山：2年間の短い間でしたが、学位を取得するために日々研究を行い、様々な方に助けをもらい、学位を取得できたことを嬉しく思います。また、専攻科では発表なども多くあり、プレゼン能力も格段に向上し、これから社会人になっていくために必要な能力を鍛えられたと思います。今までお世話になった方々どうもありがとうございました。

藤岡：私が専攻科に入学した目的は、一級海技士（航海）の筆記試験合格と学士号を取得することでした。専攻科での2年間は、本科生で5年間生活してきた環境と変わることなく、慣れ親しんだこの弓削の地で生活でき、とても充実した2年間でした。時には辛く、厳しい時期もありましたが、級友や担当教員の励ましを受け、乗り越えることができました。終わってみれば本当に一瞬のような2年間でした。この専攻科での知識、経験を糧としてこれからがんばっていこうと思います。最後に後輩への一言として、弓削島の環境は勉強するには最適の環境と私は思います。その中で何か自分なりの目標を決め、その目標達成のためがんばってください。

米倉：本校で過ごした7年間は色々な意味で本当に充実していました。学力面や人間関係面において大きく成長する事が出来ました。そして、専攻科を無事修了出来た事を嬉しく思っています。これは、海上輸送システム工学の教官方をはじめ多くの方々のおかげです。心より感謝しております、ありがとうございました。



修了証書を受け取る海上輸送システム工学科2期修了生



10月に入学した海上輸送システム工学科4期生

平成20年10月1日午前10時40分から本校第1会議室において、学校長、教職員、保護者、在学専攻科生などの参席のもと、平成20年度海上輸送システム工学専攻科4名の入学式が行われました。

開式の辞の後、落合校長から入学許可がなされ、入学生を代表して松下大輔君が宣誓を行いました。その後、校長から式辞が述べられ、祝電披露と続き、最期に専攻科長から「以上をもちまして、平成20年度弓削商船高等専門学校専攻科（海上輸送システム工学専攻）入学式を終わります」と閉会のことばで滞りなく入学式が終わり、記念撮影の後、ものづくり専攻科棟の方に場所を移し、新入生ガイダンスが行われました。

入学生からいただいた抱負を以下に紹介します。

新町：専攻科に入って1月が経ちました。今、私が専攻科にてどのようにこの先考えているかと言うと、船乗りになるなら外航の航海士、もっと勉強をしたいと思えば大学院へ行き、水先案内人になりたいと思っています。ちなみに私の座右の銘は「なにも足さない、なにも引かない」です。

藤岡：私が専攻科に入学して頑張りたいことは、海技試験の1級と英語の語彙力を向上させることです。まだ、1年生の最初なので課題や研究で忙しいですが時間を作って少しずつ自分の目標が達成できるようにしたいと思います。

藤本：専攻科に入学してまだ少ししかたっていませんが、私は多くのことが学べると思います。そしてこれらを活かして陸上の会社に就職して社会に役立てられる人になりたいと思っています。ちなみに私の座右の銘は「前向きに考える」です。

松下：本科で学んだことを活かして専攻科ではさらに勉強、研究し、海上職を目指しているのので、この2年間とることができる全ての単位や、資格などを取っていきたいです。最期の学生生活をしっかり楽しもうと考えています。